

小学校・大学・住民の連携による「まちのカルタづくりワークショップ」の開発

DEVELOPMENT OF “WORKSHOP FOR DESIGNING COMMUNITY PLAYING CARDS” BY THE PARTNERSHIP WITH ELEMENTARY SCHOOL, UNIVERSITY AND CITIZENS

野知菜穂美 — * 1 倉持康平 — * 1
志村秀明 — * 2

Naomi NOCHI — * 1 Kouhei KURAMOCHI — * 1
Hideaki SHIMURA — * 2

キーワード：
連携, まちのカルタ, 地域学習, 教育, 大学, ワークショップ

Keywords:
Partnership, Community playing card, Community study, Education, University, Workshop

The purpose of this paper is to report the detail, the result, the assigning tasks and the evaluation on “Workshop for designing community playing cards” to promote community study in elementary school. The conclusions are; 1) 50 pair playing cards about regional resources were designed by 50 children. The children and the elementary school teachers highly appreciated the workshop. 2) On the preliminary meeting, the planner and the elementary school teachers mainly discussed and decided. On the workshop, the university provided many students, and set up many workshop tools. 3) The each organization evaluated that they could generally work together.

1. はじめに

1-1 背景と目的

小学校の「総合的な学習の時間」では地域学習の様々な試みがされており、住民や大学といった地域と連携する取り組みも出てきている^{注1)}。しかしこれらの取り組みは少なく、更なる促進が望まれる。

一方でまちづくり活動はますます盛んになっている^{注2)}。その中には、地域の特徴を親しみやすくまとめて、まちづくり協議で使用するための「地域カルタづくり」といった取り組みも出てきている^{注3)}。

そこで本稿では、小学校・大学・住民の連携による小学校の地域学習を促進することを主眼として、地域学習を目的とした「まちのカルタづくりワークショップ」(以下:カルタWS)を開発・実施した。そのカルタWSの内容、成果物の実状、小学校・大学・住民の作業分担、評価について報告する。

1-2 開発・実施方法と報告の構成

小学校の「総合的な学習の時間」の地域学習として、小学校・大学・住民が連携するカルタWSを東京都江東区立第二亀戸小学校(以下:二亀小)で実施した。まず、実施したカルタWSの内容・成果物を提示する。次に、成果物であるカルタの実状を明らかにする。第三に、カルタWSにおける各主体の作業分担を明らかにする。第四に、アンケート調査によってカルタWSの評価を明らかにする。

カルタWSの内容・プログラムは、既往研究によるWSの事例を参考にして考案した^{注4)}。

1-3 対象地区・小学校の概要

カルタWSを実施した二亀小がある亀戸地区の地図を図1に示す。亀戸地区は、江東区の北部に位置し、墨田区と江戸川区に接している。周囲を北十間川、旧中川、堅川、横十間川に囲まれ、これらの

河川は江戸時代から運河として機能していた。亀戸駅の周辺は商店が多く、3、4丁目は亀戸天神社や香取神社など寺が多い。1、2、6丁目は戦後に区画整備が行われ、5丁目は細街路が多く残っている。7～9丁目は、かつて工場と倉庫が多かったが、現在は大規模集合住宅が多い。

カルタWSを主催した二亀小は、亀戸6丁目に位置し、学区域は6丁目全域と7丁目1～8番地、42～56番地である。二亀小周辺は、主に住宅街であるが、駅前の商店街や大規模商業施設のサンストリートといった賑やかな商業地区もある。また、二亀小では、地域学習の一環として俳句教育の推進を行っているため、日常の授業に俳句を多く取り入れている。なお、本稿で実施したカルタWSは、4年生2クラスの全50名の児童を対象とした。



図1 対象地区

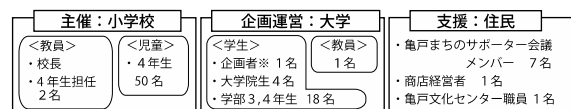


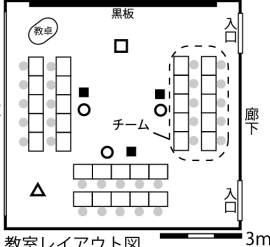

図2 カルタWSの実施主体

¹⁾ 芝浦工業大学大学院理工学研究課建設工学専攻 修士課程 (〒135-8545 東京都江東区豊洲3-7-5)

²⁾ 芝浦工業大学工学部建築学科 教授・博士(工学)

¹⁾ Graduate Student, Shibaura Institute of Technology

²⁾ Prof., Dept. of Architecture, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.

全体のテーマ：亀戸探検隊になって亀戸博士を目指そう！			
基本事項		内容	ツール・備品
第1回WS 導入	<p>日時：2011年9月22日</p> <p>■テーマ「博士から亀戸の話を聞こう」</p> <p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供達が地域を知って興味を持つ ・カルタ作成の動機付け <p>□全体時間 45分</p> <p>□会場 4年1組、4年2組</p> <p>□進行役 ■助手 ○博士 ●児童 △4年生担任</p>  <p>教室レイアウト図</p>	<p>①はじめに 10分</p> <p>進行役が亀戸探検隊（亀戸の魅力を発見・理解するための隊）について説明の後、児童も入隊した。指令書を配布後に全員で読み上げて、カルタWSの目的を理解した。各組3チーム、計6チームに分け、各チームを担当する博士（住民、地域の説明をする）と助手（大学・学生）を発表した。</p> <p>②自己紹介 10分</p> <p>チームごとに、博士・助手・児童の順番で一人ずつ自己紹介をした。チームごとの進行は、各チームの博士が行った。</p> <p>③地域資源の説明 5分</p> <p>進行役が、地域資源の説明を行った。亀戸に実在する地域資源の写真を見せながら説明した。補足は各チームで博士が行った。</p> <p>④地域の説明 15分</p> <p>各チームで博士が亀戸について児童に説明した。内容は博士が個人で考案し、古地図や絵を児童に見せながら行った。第2回WSのまち歩きで使用する探検地図を配布して、児童と博士で亀戸についてのディスカッションを行った。</p>  <p>④地域の説明の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム証 ・指令書（博士になる為の指令が書かれている） ・カルタ見本 ・名札 ・地域資源写真（A3版） ・地域に関するアイテム ・探検地図（亀戸の宝物が記してある）
	<p>日時：2011年9月29日</p> <p>■テーマ「亀戸探検で俳句づくり」(まち歩き)</p> <p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を見て回る ・地域資源で俳句を作る <p>□全体時間 95分</p> <p>□会場 4年1組、4年2組教室</p> <p>レイアウトは同様</p> <p>・亀戸1、6、7丁目</p>	<p>①はじめに 10分</p> <p>進行役が、まち歩きの注意事項と目的を説明した後、外出の準備をした。</p> <p>②まち歩き 60分</p> <p>チームごとに違う探検地図を元に、地域資源を巡った。各地点で博士が説明を行い、児童はメモを取る、俳句を詠むなどした。</p> <p>③俳句作成・俳句選択 10分</p> <p>児童がまち歩きで作成した俳句の中から、第3回WSでイラストを描くための俳句を選んだ。まち歩き中に俳句が作れなかった児童は、俳句を作った。</p>  <p>②まち歩きの様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム証 ・指令書 ・探検地図 ・児童用ボード ・筆記用具 ・俳句メモ ・デジタルカメラ ・俳句メモ
	<p>日時：2011年10月6日</p> <p>■テーマ「絵を描いてカルタを完成させよう」</p> <p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の絵を描く ・他人のカルタを知る <p>□全体時間 95分</p> <p>□会場 4年1組、4年2組教室</p> <p>レイアウトは同様</p> <p>カルタの例</p>  <p>取り札（イラスト） 読み札（俳句）</p>	<p>①はじめに 10分</p> <p>進行役が、カルタを完成させる目的と俳句清書・イラストの描き方の説明をした。</p> <p>②読み札（俳句）清書 15分</p> <p>カルタ用紙に、俳句を筆ペンで清書した。俳句を選択していない児童は、俳句の選択や作り直しを行った。</p> <p>③取り札（イラスト）作成 40分</p> <p>清書した俳句に対応したイラストを、地域資源の写真を見ながらカルタ用紙に黒ペンと色鉛筆で描いた。時間が余った児童は、さらにカルタを作成した。</p> <p>④カルタの発表 10分</p> <p>各チームで、作成したカルタの発表を行った。児童が自分の取り札をチーム全体に見せながら読み札を読みあげた。各チームの進行は、博士と助手が行った。</p>  <p>③イラスト作成の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指令書 ・カルタ見本 ・俳句メモ ・筆ペン ・黒ペン ・色鉛筆 ・カルタ用紙 ・巡った地域資源の写真
	<p>日時：2011年10月27日</p> <p>■テーマ「つくったカルタでカルタ大会！」</p> <p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルタWSの振り返りをする ・他人のカルタを知る <p>□全体時間 45分</p> <p>□会場 体育館</p> <p>□進行役 ■助手 ○博士 ●児童 △4年生担任 ▲審判</p>  <p>体育館レイアウト図</p>	<p>①はじめに 10分</p> <p>チームごとに整列した。進行役が、カルタ大会のルールをスクリーンにスライドを映しながら説明した。大学・学生による、カルタ取りのデモンストレーションを行った。</p> <p>②カルタ大会 35分</p> <p>全6チーム対抗でカルタ取りを行った。児童全員のカルタを1組ずつ使用した。進行役が読み札を読んだ後、スクリーンに取り札が映ってから児童が取りに行く方法で行った。</p> <p>③まとめ 5分</p> <p>優勝チームの発表と、優勝チームへの優勝ステッカーの贈呈を行った。最後に、児童全員に博士認定証を贈呈した。</p>  <p>①ルール説明の様子</p>  <p>②カルタ大会の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・マイク ・スクリーン ・チーム証 ・カルタ（A3版）50枚※ ・ホイッスル ・優勝ステッカー ・博士認定証

※ カルタ大会で使用したカルタは、第3回WSで作成された全72組のカルタの中から大学・企画者が各児童1枚ずつ選び、A3版に拡大したものを用意した。

図3 カルタWSの内容

1-4 カルタWSの実施主体

カルタWSの実施主体を図2に示す。住民・亀戸まちのサポーター会議^{注5)}・亀戸文化センター職員と大学・教員は、地域資源^{注6)}を集めた「かめいど福都心単語帳2011（以下：亀戸単語帳）」^{注7)}を協働で制作する活動があったため交流があった。小学校・校長から住民・亀戸文化センター職員と大学・教員に二亀小の地域学習への支援依頼があった。また、大学・企画者がカルタWS開催前に、小学校の夏季休暇中の学習指導に10日間参加して、児童達と小学校の様子を把握した。

2. カルタWSの内容・成果物

本章では、カルタWSの内容・プログラムと成果物を提示する。



図4 第2回WS「まち歩き」で巡った地域資源

2-1 カルタWSの内容

カルタWSの内容を図3に示す。カルタWSは、全体テーマを「亀戸探検隊になって亀戸博士を目指そう!」とし、全4回で実施した。対象は4年1組と4年2組合計50人の児童でそれらの教室2室を使用し、同様のプログラムを同時進行した。50人の児童は8~9人の6チームに分け、住民と大学・学生が最低1人ずつ付いた。

第1回WS「導入」では、カルタWSの目的の説明と、カルタ作成の動機付けを行った。第2回WS「まち歩き」では、チームごとに地域資源を巡りながら俳句を詠んだ。第3回WS「カルタ完成」では、前回作成した俳句からカルタにするものを選び、対応したイラストを描いた。第4回WS「カルタ大会」では、完成したカルタを使用して体育館でカルタ取りを行った。

2-2 地域資源

第2回WS「まち歩き」で各チームが巡った地域資源とその場所を、図4に示す。巡った地域資源は「亀戸単語帳」に記載されている24カ所とした。

2-3 成果物

第2回WSで児童が作成した俳句を表1に示す。作成された俳句で地域資源を詠んだものは、6チーム合わせて140句であった。第3回WSで作成された、俳句（読み札）とイラスト（取り札）が対になっているカルタは72組であった^{注8)}。その例を図3中に示す。なお、第4回WS「カルタ大会」では、50人の児童それぞれが作成したカルタが使用されるように、50枚のカルタを選定・使用した。

3. 成果物・カルタの実状

本章では、カルタWSで作成された俳句とイラスト、カルタの実状を明らかにする。

表1 俳句一覧(全140句)

●…第4回WS「カルタ大会」で使用した俳句(50句)

俳句	地域資源	俳句	地域資源	俳句	地域資源
じょさんいん 赤ちゃんしかり ぼこそるよ ●	助産院	ひこうきの あるうち少ない おもしろい ●	飛行機のある家	おみこしを 石で守って 五十二年	亀七南会館
じょさんいん 赤ちゃんとよ じょさんぶさん ●		せんとうき たたかい日本を まりめく ●		七瀬 中におみこし 石の家	
じょさんいん あかちゃんとして うれしいな ●		ひこうきの あたまのぶぶん でっかいな ●		みこしをね かんだときは こころガチ	
助産院 赤ちゃんとくさん がばって ●		飛行機のある家 せんた部分 つかないな ●		あつひ日は みしをかきついで おまつりや	
助産院 赤ちゃんとくさん がわいいな ●		ひこうきの あたまのぶぶん 亀戸に ●		いつの日か かりじんじやで みこし見る	
じょさんいん ぶじな赤ちゃん ありがとう ●		ひこうきの あたまのぶぶん かつこいい ●		間の中 一つつかうよ おみこしを	
じょさんいん わたしの赤ちゃん かわいいな ●		このはしと なまえをつけた えどじだい ●		五十二年 すごいきろくた 七瀬	
龍を守る よくかめじぞう よししくね ●	よくかめ地蔵	このはしと ハトがいつぱい わたてる ●		七瀬 みこしをまもる てっぺきだ	
白い歯で ひかひかにする それねがう ●		このはしと 五つめのはし なんだね ●		人々の 命を守る せんとうき ●	陸軍軍曹戦死の碑
よろしくね よくかめじぞう 歯を守る ●		さざえ堂 えど時代から 匠役しよ ●	さざえ堂 (羅漢堂)	ひこうきで B29 たいあたり	
はがよくと よくかめじぞうに ねがふたよ ●		さざえ堂 まえはあつてよ 亀戸に ●	旧千葉街道	くまがいさん 日本のために ありがとう	
龍を守り よくかめじぞう うらみあり ●		さざえ堂 まえはあつてよ 亀戸に ●		くまがいさん 日本の未来を 見守って	
とやまゆの ふじはタイルで できている ●	富山湯	ちばにいく みまのりにはこ きたるんだ ●		平岩家 なぞの文字のこし 死んでた ●	平岩稲荷神社
とやまゆの ふじはどかどか きれいだ ●		なつかしの 通りのあるよ 亀戸は ●		平岩家 なぞがいつぱい わらない ●	
せんとうの タイルはふじ山 おもしろい ●		るじの中 たくさんお店 あつたんだ ●	路地	おいはり 白いきつねと いづみだ ●	
とやまゆの 行ったらきつと 気持ちいい ●		せまいみち そこにはいつぱいの おみせやさん ●	亀戸大根	平岩家 昔の人の 名前だよ ●	
とやまゆの いろいろないろ あるんだ ●		亀戸は 亀戸大こん 見つけたよ ●		平岩家 とくがわいやすや 安かった ●	魚鱈
とやまゆの ふじさんみえる いっぱいだ ●		かめいどは かめいどだいこん かにある ●		れきしあり 魚屋とても おつかさん ●	
やくしゃ寺 昔のれきし いっぱいだ ●	自性院	がいのとう のきのマーク かめいど大根 ●		魚屋さん 3つのはしよに きれしあり ●	地区全体
やくしゃ寺 おぼろさんを 育てたよ ●		さのみそや そののちかに ラーメンや ●	佐野味噌醤油店	たんけんた 3つのはしよに きれしあり ●	
やくしゃ寺 かぶき役者が おぼろさん ●		かめいどが いろいろいるよ 町の中 ●	地区全体	山崎園 昔ながらの 温かさ ●	山崎園
やくしゃ寺 やくしゃやなくて おぼろさん ●		三百年 きれしがのころ 占風園跡 ●	占風園跡	お茶屋さん 二亀とんじ 百才だ ●	
やくしゃで かぶきをやめて おぼろさん ●		300年 きれしをかきねた ましゅまろ亭 ●	ましゅまろ亭	おちやさん すごく古くて びくりだ ●	
龍戸の ほうきよくいんとう 最古だよ ●		龍戸の わがしといえは ましゅまろてい ●		みそ屋さん やつぱりプロだ おいしいぞ ●	
やくしゃ寺 やくしゃをやめて おぼろさん ●		うまそうだ ふあふあして ましゅまろだ ●		うまい味を 白みそ黒みそ いっぱいだ ●	
とでんのね 車輪だけが おいてある ●	堅川入道橋	さんすたで びんぼうがみか みていよ ●		佐野みそや みそがいつぱい プロの味 ●	佐野味噌醤油店
しゃりんはね 今にもあるから ゆうめいだ ●		サンストは きれしがのころ 占風園跡 ●	サンストリート	佐野味噌や ああ佐野味噌や 佐野味噌や ●	
たて川の 電車のれきし したんだ ●		サンストは 私のじまんの ショッピング ●		さのみそや 長年つづく プロの味 ●	
サンストは 太陽通る まじしいな ●	サンストリート	サンストの れきしがわかった きもちいい ●		さのみそや みそそのおいで いっぱいだ ●	
サンストは 私のじまんの ショッピング ●		サンストの 20年たち 占風園跡 ●		さのみそや おもしろいみそが ありました ●	
サンストの れきしがわかった きもちいい ●		工場に 二人が つかめてた ●		くらみそや 左のほうを あじびたい ●	
サンストは たいようのみを あわわっている ●		サンストの びんぼう神を やつぱりよ ●		みそやさん やつぱりプロだ おいしい ●	
じんじやには おまいりしたよ きつねさま ●	街角のお稲荷さん	古い家 昔は工場 びっくりだ ●	清水加工工場	さのみそや 急に中か屋 なんでもだ ●	九龍城
いなりに は 赤いといと きつねい ●		ヒビかえた 金のかんばん 古そうだ ●	石留酒店	じがじさん 銀賞取った アルバムだ ●	
きつねはね どりいといつよ うれしいな ●		緑道は 昔は公園 楽しそう ●	緑道公園	写真や 写真のうでは 銀ダル ●	JIGAJI写真店
かねふって おねがいたら かなうかな ●		千葉街道 東京・千葉を 結んでる ●	旧千葉街道	じがじさん 写真はあまかせ おねがいね ●	
いりさん ねがいかなえろ いますぐに ●		駅前に トキがいつぱい 飛んでいた ●	交差点歩道橋	すてきさん すてきつこい つかれたな ●	
江戸時代 せんぶえんあと 広にいわ ●	占風園跡	二輪車は 目の前びつり ぼどうよう ●	自転車専用道路	写真や 写真のうでは 銀ダル ●	
江戸時代 きれいだわ きれいだ ●		はそい道 せん用道路を 走りまいる ●		じがじさん 銀賞取った アルバムだ ●	
えどじだい せんぶえんは けうめいだ ●		あちこちに ねきしが見えたい たからもの ●	地区全体	写真や 写真のうでは 銀ダル ●	
くさくさが はん分にわれてる なんでだろう ●	飛行機のある家	かめいど の れきしがいつぱい たからもの ●		じがじさん すてきつこい つかれたな ●	
ましゅまろ食 私のほっぺも ふわふわ ●		あちこちに ねきしが見えたい たからもの ●		写真や 写真のうでは 銀ダル ●	
かめいどで なまましゅまろ たべたいな ●	ましゅまろ亭	あちこちに ねきしが見えたい たからもの ●		じがじさん すてきつこい つかれたな ●	
マシュマロは ふわふわしてて おもしろ ●		あちこちに ねきしが見えたい たからもの ●		写真や 写真のうでは 銀ダル ●	
ましゅまろは よくかきしたて 入れるよ ●		あちこちに ねきしが見えたい たからもの ●		じがじさん すてきつこい つかれたな ●	
マシュマロは 種類がいろいろ 楽しめる ●		あちこちに ねきしが見えたい たからもの ●		写真や 写真のうでは 銀ダル ●	
作りたて マシュマロ亭で たべれるよ ●		あちこちに ねきしが見えたい たからもの ●		じがじさん すてきつこい つかれたな ●	

3-1 俳句数

第2回WSで作成された俳句数のチーム別比較を図5に示す。俳句数はピンクチームが26句と最多で、黄色チームが21句と最少であった。なお、1人の児童が作成した俳句は、緑チームと黄色チームの児童による6句が最多であった。14人が1句だけであった。

3-2 地域資源別の俳句数

第2回WSと第3回WSで作成された俳句・イラスト数を、地域資源別に分類したものを図6に示す。第2回WSでは、「佐野味噌醤油店」が15句と最も多い。佐野味噌醤油店では、味噌の味見や量り売りの実演を見学した。11句の「亀七南会館」は、以前に授業で石の蔵に所蔵されている神輿を勉強する機会があった。9句の「サンストリート」は、児童達が日常的に利用している商業施設である。8句の「ましゅまろ亭」は、まち歩きでの訪問時に製造の実演を見学した。

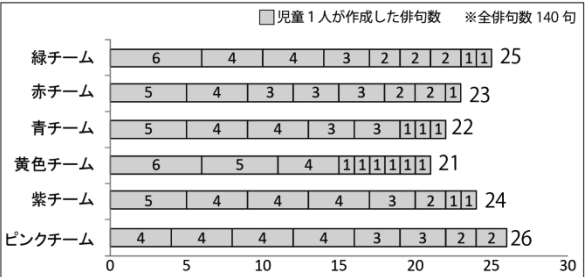


図5 チーム別の俳句数

3-3 地域資源別のイラスト

図6に示すようにイラスト数は、「佐野味噌醤油店」と「亀七南会館」が6枚と最も多く、次に「路地」が5枚である。俳句数が多く、イラストを描きやすい地域資源が多く選ばれたと考えられる^{注9)}。

3-4 小結

俳句が得意な児童は、時間内に多くの俳句の作成ができるが、1句しか作成できない児童も多くいた。

第2回WSでは、まち歩きで実演などにより強く印象に残った地域資源が、多く俳句に作成されたと推測される。第3回WSでは、イラストに描きやすい地域資源の俳句が多く描かれたと推測される。

4. カルタWSにおける各主体の作業分担

本章では、カルタWSの準備打合せ過程と各主体の作業分担を明らかにする。

4-1 カルタWSの準備打合せ過程

カルタWSの準備打合せ過程を、図7の上部に示す。打合せは全6回行われた^{注10)}。1回目の打合せが行われたのは、第1回WSの約2ヶ月半前であった。以降、開催約1ヶ月半前から定期的に行い、最終の打合せは第1回WS開催の1週間前であった。

1回目の打合せでは、顔合わせと共に、「①目的」「④内容」「⑤当日の役割分担」の検討を行った。2回目の打合せでは、「①目的」の決定と、新たに「②日時・回数」「⑥まち歩きのルート」の検討を始めた。3回目の打合せでは、「②日時・回数」「⑤当日の役割分担」

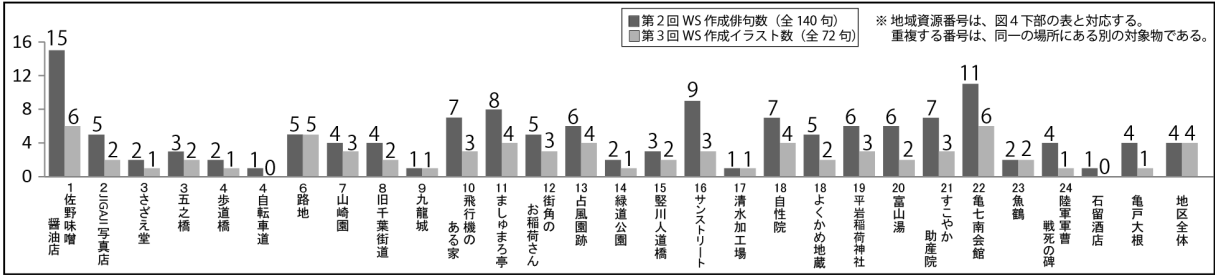


図6 地域資源毎の俳句数とイラスト数

日時	WS実施主体			確認項目							
	大学	住民	小学校	①目的	②日時・回数	③会場	④内容	⑤当日の役割分担	⑥まち歩きのルート	⑦チーム	⑧ツール・備品
1回目 2011/7/10 15時～16時	・企画者 ・研究者 ・学生4名	・サポ 4名	・校長	子供達は 地域のことを よく知らない			俳句と 地域資源を 活かしたい	住民の 地域に関する 知識を活かす			
2回目 2011/8/8 15時～16時	・企画者 ・研究者		・校長	「亀戸への 愛着心を 高める」	「総合的な学習の時間」 を使用すること、 実施回数が決定		地域資源を巡り、 俳句とイラストで カルタを作る	住民が 地域資源を 案内する	ルートの考案は 住民の提案を 参考にする		
3回目 2011/8/19 11時～13時	・企画者		・担任 2名		授業時間を 考慮して 日時を決定	カルタ大会で 体育館の 使用を決定	子供達の興味を 引き出すための 設定を抽出	小学校と大学は 全体のサポート	まち歩きの 範囲は学区 に限定する	児童は4年生担任、 住民・学生は 企画者が 事前に分ける	企画者が配布物、 4年生担任が 機器類を準備
4回目 2011/8/26 19時～20時	・企画者 ・研究者	・サポ7名 ・センター (※2)					地域資源を 子供達に伝える 方法について		住民が各自調査 した地域資源で ルートを考察		住民は、 地域資源に関する 資料を各自が持参
5回目 2011/9/1 16時～18時	・企画者	・サポ ・センター	・担任2名			4年1組・2組の 教室の使用を決定	カルタWS当日の 時間配分が決定		まち歩きの シミュレーションを 実施して 事前にルートの確認		
6回目 2011/9/15 19時～20時	・企画者 ・研究者	・サポ ・センター							確定したルートの 最終確認		

※1 亀戸まちのサポーター会議 ※2 亀戸文化センター職員

● 検討

↓ 決定

	○提案 △検討 ◎決定	確認項目							
		①目的	②日時・回数	③会場	④内容	⑤当日の役割分担	⑥まち歩きの ルート	⑦チーム	⑧ツール・備品
大学	企画者	△	○	○	○△◎	○ ◎	○△◎	○ ◎	○ ◎
	学生						△		
	教員	△			△		△		
	住民	△			△	△	○△		△◎
小学校	校長	○△◎	◎		○△	○ ◎	△		
	4年生担任		△◎	△◎	○△◎	△◎	△◎	△◎	◎

図7 カルタWSの準備打合せ過程と作業分担

「⑦チーム」の決定と、新たに「③会場」「⑧ツール・備品」の検討を始めた。4回目の打合せでは「⑧ツール・備品」を決定し、5回目の打合せでは、「③会場」「④内容」を決定した。最後の6回目の打合せでは、「⑥まち歩きルート」を決定した。

4-2 打合せ過程での各主体の作業分担

打合せ過程での各主体の作業状況を図7下部に示す。

「①目的」は、校長が提案をし、大学・企画者と住民で検討をし、校長が決定をした。「②日時・回数」は、大学・企画者が提案をし、日時は4年生担任が検討・決定をし、回数は校長が決定をした。「③会場」は、大学・企画者が提案をし、4年生担任が検討・決定をした。「④内容」は、大学・企画者、校長、4年生担任が全体の提案をし、大学・企画者が大学教員と住民を交えて検討をし、大学・企画者と4年生担任で決定をした。「⑤当日の役割分担」は、校長が住民の役割の提案をし、住民が検討・決定をした。大学・企画者がその他の役割分担の提案をし、4年生担任が検討をし、大学・企画者と4年生担任で決定をした。「⑥ルート」は、大学・企画者と住民が提案をした。大学はまち歩きのシミュレーションをし、住民は案内する地域資源の調査をし、校長と4年生担任がルートの安全確認を行い、大学・企画者と4年生担任で決定をした。「⑦チーム」は、大学・企画者がチーム数や人数の提案をし、4年生担任が児童のチーム分けを検討・決定をした。児童以外の住民と大学・学生のチーム分けは、大学・企画者が決定をした。「⑧ツール・備品」は、大学・企画者の提案をし、住民と4年生担任が検討・決定をした。大学が準備するツール・備品については、大学・企画者が決定をした。

4-3 カルタWS当日の各主体の作業分担

カルタWS当日の作業分担と人数を表2に示す。

12個の作業があり、「俳句・イラスト指導」「発表補助」「安全管理」は全ての主体が行った。大学・学生は「全体の進行」「資料配布」「時間管理」「審判」を、住民は「チームの進行」「地域資源説明」「まち歩き誘導」を、小学校・4年生担任は「マナー指導」「緊急時対応」をそれぞれ担った。カルタWSは、各回で20人前後の人員を要した。その中で、大学・学生は各回10人前後の人員を出していた。住民は4人以上、小学校は毎回2人ずつであった。

表2 カルタWS当日の作業分担と人数

		凡例 ●: 作業主体		
		大学・学生	住民	小学校・4年生担任
作業	俳句・イラスト指導 (第2~3回WS)	●	●	●
	発表補助 (第3回WS)	●	●	●
	安全管理 (第2、4回WS)	●	●	●
	全体の進行 (全WS)	●	●	●
	資料配布 (全WS)	●	●	●
	時間管理 (第2回WS)	●	●	●
	審判 (第4回WS)	●	●	●
	チームの進行 (第1~3回WS)		●	
	地域資源説明 (第1~2回WS)		●	
	まちあるきの誘導 (第2回WS)		●	
	マナー指導 (全WS)			●
	緊急時対応 (第2回WS)			●
人数	第1回WS (合計18名)	10	6	2
	第2回WS (合計22名)	14	6	2
	第3回WS (合計19名)	13	4	2
	第4回WS (合計18名)	12	4	2
	延べ人数77名	49	20	8

表3 ツール・備品の準備作業分担

	ツール・備品			
	第1回WS	第2回WS	第3回WS	第4回WS
大学・企画者・学生	・指図書 ・探検地図 ・チーム証 ・カルタ見本 ・地域資源写真	・指図書 ・探検地図 ・チーム証 ・俳句メモ	・指図書 ・探検地図 ・黒ペン・筆ペン ・チーム証 ・カルタ見本	・カルタ見本 (A3版) ・博士認定証 ・優勝ステッカー ・チーム証
住民	・地域資源関係資料	・地域資源関係資料		
小学校・4年生担任	・スタッフの椅子	・デジタルカメラ ・児童用ボード	・スタッフの椅子 ・色鉛筆	・プロジェクター ・パソコン ・マイク ・スクリーン

4-4 ツール・備品の準備作業分担

ツール・備品の準備作業分担を表3に示す。カルタWS進行に必要な備品・ツールは主に大学・企画者が準備し、地域資源に関する資料は住民が準備し、プロジェクター等の機材は小学校・4年生担任が準備した。

4-5 小結

本章では、準備打合せの過程を項目別に整理し、各主体の作業分担を、「提案」「検討」「決定」に分けて明らかにした。カルタWSの準備打合せ過程では、大学・企画者と小学校・教員が中心となり、提案、検討、決定をした。「まち歩きのルート」や「ツール・備品」といった項目等では、住民も提案、検討、決定をした。全6回の準備打合せは約2ヶ月半を要し、カルタWSのプログラムが決定したのは、第1回WSの約3週間前であった。また、カルタWS当日の各主体の作業分担とツール・備品の準備作業分担を明らかにし、大学が多くの人員を提供をし、多くのツール・備品を準備したことが分かった。

5. カルタWSへの評価

本章では、小学校・大学・住民に向けて行ったアンケート調査^{注1)}結果から、カルタWSの評価を明らかにする。

5-1 児童の評価

小学校・児童に対して、第2回WS後と第4回WS後に実施したアンケート結果を図8に示す。第2回WS「まち歩き」(亀戸探検)について、ほぼ全員が楽しかったと回答しており、博士(住民)の話も面白かったと回答した。また、70%が俳句を詠むことは難しかったと回答した。俳句を詠むことの難しさはあるものの、第2回WSに対する満足度は高かったと言える。

第4回WS後に実施したアンケート調査では、カルタWSを通じて約85%が亀戸について詳しくなった、またカルタWSに参加したいと回答した。また、ほぼ全員がカルタWSを楽しかったと回答した。

5-2 他主体との相互連携

他主体との連携について各主体に行ったアンケート調査の結果を図9上部に示す。小学校と住民は、全てが「十分にできた」「まあまあできた」と回答し、概ね他主体との連携ができたと評価した。大学も小学校との連携では「どちらともいえない」が14%であるが、概ね連携ができたと評価した。

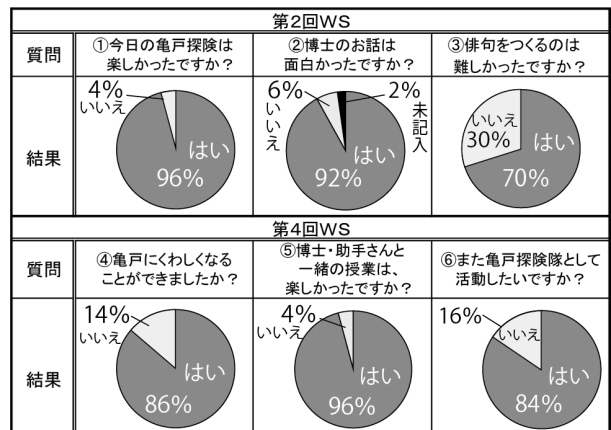


図8 児童へのアンケート調査結果

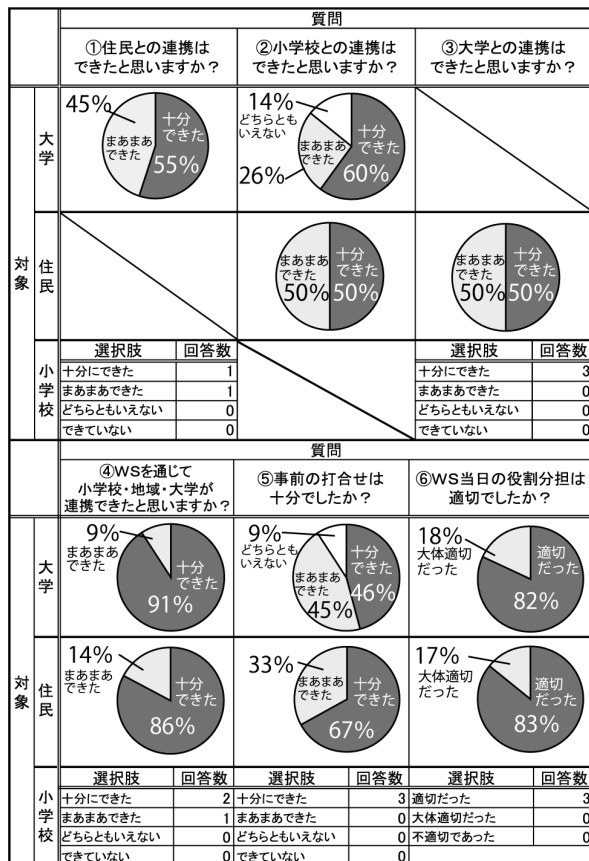


図9 大学・住民・小学校へのアンケート調査結果

5-3 全般的な連携と事前の打合せ、カルタWS当日の役割分担

全般的な連携と事前の打合せとカルタWS当日の役割分担についての各主体へのアンケート結果を図9下部に示す。各主体とも、カルタWSを通じて小学校・大学・住民が概ね連携できたと評価した。事前の打合せについては、大学が若干「どちらともいえない」^{注12)}とあるが、やはり概ね連携できたと評価した。また、カルタWS当日の役割分担は各主体とも適切だったと評価した。

5-4 小結

小学校・児童はカルタWSについて、楽しみながら亀戸地区について詳しくなることができたとして評価した。アンケート調査は行っていないが、小学校・教員もカルタWSの成果を高く評価していた^{注13)}。

各主体は、準備打合せと当日の役割分担も含めたカルタWS全般で、小学校・大学・住民が概ね連携できたと評価した。しかし、大学と小学校の事前打ち合わせに関して、不測の事態への明確な対応方法などの若干の改善の余地があることが分かった。

6. まとめ

本稿では、まちづくり活動の基盤となる小学校の地域学習を促進することを主眼として、小学校・大学・住民の連携による地域学習を目的としたカルタWSを東京都江東区第二亀戸小学校で開発・実施した。そのカルタWSの内容・成果物の実状、小学校・大学・住民の作業分担、評価について以下のことを提示した。

①全4回のWSから成るカルタWSの内容・プログラムによって、50組のカルタが完成した。50人の児童が参加し、児童全員が自分で俳句とイラストを作成し、50組のカルタとなった。カルタWSは、小学校・児童と小学校・教員から高い評価を得た。

②カルタの「読み札」となった俳句は、50人の児童合計で140句詠まれ、児童1人あたりが詠んだ俳句数は様々であるが、児童全員が1句以上詠むことができた。ほとんどの俳句は、実施主体が準備した地域資源にもとづいて詠まれた。実演といった印象的な説明があった地域資源で多くの俳句が詠まれた。

③カルタWSの準備打合せ過程では、大学・企画者と小学校・教員が中心となり、「提案」「検討」「決定」をした。「まち歩きルート」や「ツール・備品」といった項目等では、住民も提案、検討、決定をした。カルタWS当日では、大学・学生が多くの人員を提供をし、ツール・備品の準備でも大学が多く準備をした。

④本カルタWSの開発・実施において、小学校・大学・住民の各主体は、概ね相互に連携できたと評価した。

このカルタWSは、小学校・大学・住民の連携による小学校の地域学習を主眼としたカルタWSの一つの実例であるが、カルタWSの様な取り組みの参考例となる内容・プログラムを提示できたと考え、このような取り組みの促進に寄与するものと考えている。

謝辞

本稿は企画者であった前田安佳里（現：豊島区役所勤務）の芝浦工業大学工学部建築学科卒業研究（2011年度）に基づくものである。

また、本稿は、JSPS 科研費 23560739 の助成を受けたものである。

注釈

- 注1) 参考文献1)2)3)4) 参照。
- 注2) 参考文献5) 参照。まちづくりを支援するために様々なワークショップ手法と方法論が提示されている。
- 注3) 参考文献6) 参照。まちづくり協議では「地域カルタづくり」の研究報告はあるが、小学校の「総合的な学習の時間」での「地域カルタづくり」の研究報告はない。
- 注4) 参考文献7) 参照。
- 注5) 亀戸文化センター講座「亀戸のまちのサポーターになろう」の受講生の有志約10名からなる任意組織。まち歩きガイド等の活動を行っている。
- 注6) 参考文献8) 参照。本稿では、地域資源を「身近に存在し、普段見過ごしがちな地域の魅力や特性であり、まちづくり活動の種となるもの」と定義する。
- 注7) 参考文献9)10) 参照。
- 注8) 第3回WSで、カルタとして作成するために、児童が選んだ俳句は72句であった。選ばれた72句に対応したイラストが描かれた。
- 注9) 「佐野味噌醤油店」では味噌樽、「亀七南会館」では巴紋のある石蔵、「路地」では植木鉢がイラストとして多く描かれた。
- 注10) 大学内（学生・教員間）での打合せは含まれていない。なお、大学内での打合せは合計4回で、カルタWS開催の事前確認として行った。住民との打合せでは、住民が参加できる時間帯を考慮して19時以降に行った。小学校と大学の打合せは、小学校校長・4年生担任の都合に合わせて大学・企画者が参加した。
- 注11) アンケート調査は、第2回WSと第4回WSの直後にカルタWSに携わった児童合計50名と、また全4回のカルタWS後10月27日から11月7日に大学・学生11名、サポーター7名、亀戸文化センター職員、小学校・校長、4年生担任2名の合計22人に対して実施した。回答率は児童と各主体ともに100%であった。
- 注12) 対象が小学校・児童のため、進行の大幅な遅れ等の不測の事態が生じてしまったことによる。
- 注13) 高い評価を得たことで、2011年10月22日に開催された「二亀小開校100周年記念式典」にて、カルタWSの成果物が展示された。

参考文献

- 1) こどもとまちづくり研究会：まちづくり読本2 こどもとまちづくり一面白さの冒険一、(有) 風土社、1996.8
- 2) 日本建築学会：楽々建築・楽々都市`すまい・まち・地球`自分との関係を見つけるワークショップ、技報堂出版、2001.3
- 3) 日本建築学会：まちづくり教科書第6巻 まちづくり学習、(株) 丸善、2004.9
- 4) 辛島一樹、加藤浩司：総合的な学習の時間における“まちづくり学習”の地域社会との連携状況の基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集、2006年、F-1分冊、pp.541~542、2006.9
- 5) 佐藤滋ほか6名：まちづくりデザインゲーム、学芸出版社、2005.3
- 6) 豊田佳隆、後藤春彦ほか6名：まちなみ協議ツールとしての「まちなみカルタ」の開発一群馬県利根郡みなかみ町湯原地区を対象として、日本建築学会技術報告集、vol.13、第26号、pp.767~771、2007.12
- 7) 斎藤匠、松島裕司ほか2名：小学校と大学生が連携する『まち歩き俳句ワークショップ』の開発 江東区八名川小学校における取り組みを事例としての研究、日本建築学会学術講演梗概集、2010年、F-1分冊、pp.215~216、2010.9
- 8) 志村秀明：生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり 第四部第2章生活景の発見と読解手法、pp.165~174、学芸出版、2009.3
- 9) 納谷和孝ほか5名：大学と文化センターとの連携講座による地域資源単語帳の開発、日本建築学会技術報告集、第16巻、第32号、pp.315~320、2010.2
- 10) 江東区亀戸文化センター：かめいど副都心単語帳 2011.3

[2013年6月17日原稿受理 2013年8月12日採用決定]